

聴くオフ・ミーティング報告書

テーマ わたしたちが平和を伝えといたら
～みんなで考えるこれからのこと～

令和8年9月5日開催

区では、区政への区民参加の仕組みづくりとして、身近な行政課題について、区長と区民が直接意見を交換する「聴くオフ・ミーティング」を開催しています。令和8年9月5日は、「わたしたちが平和を伝えといたら～みんなで考えるこれからのこと～」をテーマに、一般公募と無作為抽出した2000名の区民の中から参加していただいた20名の方と話し合いました。

区長から

「聴くオフ・ミーティング」に参加いただきありがとうございます。本日のテーマは「平和を伝えること」です。区では、これまでも様々な平和事業を行ってまいりました。今回は戦争の体験者が減少していく中で、どうやって平和の大切さを伝えていくかを皆さんと意見を交換したいと思います。

平和は行政だけが取り組む課題ではありません。とりわけ、杉並は原水爆禁止署名運動発祥の地であります。公民館を舞台に地域の女性から始まった署名運動が区を動かし、大きなうねりとなって全国、世界へと広がり、現在の核兵器禁止条約の礎や杉並区平和都市宣言の背景となった歴史があります。このことを区の誇りとして、皆様と一緒に今後平和事業を拡充、前進させていきたいと思っています。

本日は、区の平和学習中学生派遣事業に参加くださった松田さん、国際開発・平和構築を専門とする戸田さんを迎え、対話を深めていくことに協力いただいています。どうぞよろしくお願いいたします。



担当課からの説明

区の平和事業とこれからの課題



区では、原水爆禁止署名運動発祥の地や平和都市宣言の制定の歴史や理念を受け継いで、平和の大切さを次の世代に伝える様々な平和活動に取り組んでいます。

主なものとして、中学生が広島や長崎を訪れて平和について学ぶ平和学習中学生派遣事業。区内に残る戦争遺構や平和の象徴をめぐることができる「すぎなみ平和マップ」の作成や被爆者の証言映像の活用により平和の尊さを伝えています。

さらに、平和の集い、ポスターコンクール、学校での平和出前授業を通じて幅広い世代が平和について考え学ぶ機会を提供しています。年々、戦争を経験した人が減少していくなかで、記憶の継承、平和を自分事として考える機会などをどのように確保していくかが大きな課題となっています。

区の主な平和事業

平和学習中学生派遣事業



すぎなみ平和マップや被爆者(杉並区在住)証言記録映像の活用



「平和のつどい」(8月・3月)
ロビーコンサートやパネル展示





1 世界の現状を見る

平和について世界の現状をみると武力紛争の件数は戦後一番多く、難民などの数もおおむね日本の総人口に当たります。その他民主主義国家の減少、平和についての不安材料が増えていることがわかります。今、平和を話し合う意義は大きいと思います。



2 平和を伝えるということ

日本は平和と言われますが、若者たちは国の将来や自分の未来に対する希望を持っているか。調査によると国際的にみて低い状況にあります。そのような状況の中で、平和で豊かな魅力的な日本社会を維持していくためには、次の世代（平和の担い手）が平和の大切さに気付き、なにをすればいいのかについて自分たちの考えを深めてもらう必要があります。それをどのように伝えていくかが難しい。

3 「伝える」のではなく「伝わる」平和にするために

平和講演で戦争の映像を見て、その時は理解しても忙しい日常の中で忘れてしまう。その繰り返しでは、平和を伝えていくことは難しい。まず、平和は当たり前存在するものでなく、自分にとって大切なものが守られている状態そのものであることに気付いてもらう。そのうえで押し付けるのではなく、対話の中で平和を「楽しく、わくわくするもの」として捉え、自ら行動する担い手を育てる仕組みをつくることが「伝わる平和」だと考えています。



1 なぜ長崎平和事業に参加しようと思ったか

参加の動機をまずお伝えしたいと思います。実際に長崎で何が起こったかを知りたいという思いもありましたが、戦後81年が経ち、被爆者の高齢化により戦争の「記憶」が単なる「歴史」になってしまうことへの危機感が私の中にあったこと。また、なぜ戦争は無くならないか。なぜ武力で解決しようとするのかを知りたいという思いがあったことによります。

2 新しい平和学習のデザインにチャレンジしたい

この事業を通じてわたしが得たものは「知ること」と「学び」とは異なると実感したことです。単に知識を得るだけでなく、「なぜそうなったのか」「別の立場から見るとどうか」と考え続けることこそが「学び」であると考えようになりました。そのため、戦争や原爆を遠い歴史としてではなく、友人との対立や価値観の違いなどの身近な問題と結びつけ、自分事として平和を考えることが大事であるし、これが新しい平和学習のデザインになるのではないかと考えています。

3 最後に

平和にはきっと一つの正解があるわけではありません。だからこそ、考えることをやめないことが大切なのだと思います。そして、私たちの世代が原爆のことは昔の歴史だと思ってしまった瞬間に記憶は歴史へと変わってしまうのではないのでしょうか。だから私は疑問を持って考えて、誰かに伝える。その繰り返しによって記憶を未来につないでいきたいと思っています。平和とは何かという正解のない永遠の問いと向き合っていきたいと思っています。

最後に
平和とは何かという
正解のない永遠の問いと共に
生きていく、それが人間の本
質なのかもしれない

質問タイム

Q1 松田さんへ 平和学習に参加する前と後で、戦争や平和に対する考え方はどのように変わりましたか。



もともと関心はありましたが、長崎で被爆者の証言や資料に触れ、戦争や原爆は単に過去の出来事ではなく、これからも問い続け学び続けるべき課題だと強く感じるようになりました。

Q2 松田さんへ 友人にも知ってほしいと思ったことは何ですか。

戦争や平和を重いテーマとして避けるのではなく、友人とのけんかや人間関係など身近な出来事と結び付けて考えることで、自分事として平和を理解できることを伝えたいと思いました。

Q3 戸田さんへ

Q. 地域における平和活動の役割についてどう考えていますか。

まず、子どもや若者を教えられる側ではなく、共に学び対話する主体として捉えることが重要です。また、平和を多文化共生や教育と結び付け、身近な課題として考える必要があります。さらに、単発のイベントで終わらせず、地域や行政が連携して平和を学び続ける仕組みをつくるのがいちばん大切だと思います。



グループトーク ～平和を伝えるには～



全体トークで出たアイデア・意見



- 🗣️ 図書館や区施設で平和資料を常設展示し、戦争体験者に代わる「語り部の語り部」を育て、記憶の継承を図る
- 🗣️ 親しみやすい平和資料館をつくり、気軽に訪れ平和を身近に感じられるようにする
- 🗣️ アニメ、音楽、演劇など文化的表現を活用し、世代や国を越えて平和への理解を広げる
- 🗣️ 音楽や映画など楽しめるイベントと平和を結付け、まず興味を持つ入口を広げる
- 🗣️ ゴミ拾いなど身近な活動を続け、美しいまちづくりを通じて平和な杉並を実現したい
- 🗣️ 学校に「平和活動部」を作り若者の主体的な参加を図る。基金や企画支援の仕組みを
- 🗣️ 語り部の減る今こそ世代を超えて語りあうチャンス。文化資源を活用して平和を考えたい
- 🗣️ 相手を知り理解することが平和への第一歩。地域文化や人との交流を積極的に発信したい
- 🗣️ 平和を語ることをあきらめず、自ら声を上げ続けることが平和都市・杉並の未来につながる
- 🗣️ 演劇やアニメなど多様な文化を通じて平和に、触れる機会を増やし、裾野を広げたい
- 🗣️ 平和は黙っていても守れない。小さな発信でも続けることで無関心を変えていく
- 🗣️ 世界の紛争を他人ごとにはせず、周囲への共感と思いやりを広げることが平和につながる
- 🗣️ 日常の平和に感謝し、挨拶や「ありがとう」の一言から平和な社会づくりを進めたい
- 🗣️ 他者への想像力を育むために、平和や戦争について対話できる場を設けることが重要
- 🗣️ 世界平和の出発点は家庭平和。自分に優しく、人にはもっと優しく接することを心掛けたい
- 🗣️ 平和とは戦争がないことだけではなく、人権や尊厳、多様性が尊重される社会を築くこと
- 🗣️ 戦争や平和について語り合い意見交換する機会を持つこと自体が平和への第一歩である
- 🗣️ 過去と現在の平和を考え続け、国籍や立場を超えた対話と交流を深めていきたい
- 🗣️ 平和教育では知識を与えるだけでなく、自分で考えさせることが主体的な行動につながる
- 🗣️ 一人でもできることは多い。小さな行動を積み重ね、人と語りあうことが平和への力になる



地域の学び推進課長(堀水課長)

今日の対話を通じて、行政が一方向的に学びを提供するのではなく、区民とともに学び合うことの大切さを改めて感じました。平和とは何かを皆で考え、次世代へつなぐ地域の学びの仕組みづくりを進めていきたいと思います。

中央図書館長(牛山館長)

平和に関する記念碑に囲まれた図書館の役割を踏まえ、日常の暮らしや静かに読書できる環境の尊さこそ平和の表れだと実感いたしました。今後は本を読むだけでなく、平和をはじめ様々なことについて語り合える場づくりも検討していきたいと思います。



区民生活部管理課長(倉島課長)

平和は重いテーマと思われがちですが、「今日は平和だった」と感じるように身近な暮らしの中にも存在すると再認識しました。参加者同士が意見を交わし考え続けることが、平和につながると思います。今日皆さんからいただいた意見をこれからの平和施策に生かしたいと思っています。

区長挨拶

今日はこのミーティングを通じて、改めて平和について区民とともに考えることの重要性を実感いたしました。平和都市宣言から約40年を迎える中、これまでの取組を振り返るだけでなく、現代にふさわしい新たな平和政策を区民と共に創り上げていく必要があると思います。そのために、このキックオフミーティングで出た意見や提案を平和懇談会や施策に反映させてまいります。

また、平和づくりには区の強みであるアニメや演劇、図書館など豊かな文化資源や人材を活かして平和を難しく重いテーマとしてではなく、文化やアートを通じて誰もが参加しやすい形で発信し「まち全体で平和を育てる」という素敵な提案をいただきました。

平和とは正解のない問いであり、他者を理解し対話を重ねながら考え続けることが大切だと思います。若い世代の主体的な参加や学びを支える環境を整え、区民・学校・地域・行政が協力して平和について学び続ける文化を築いてまいります。



たくさんのアイデアありがとうございました



令和 8 年 9 月 5 日開催 聴くオフ・ミーティング報告書

〈参加者〉区民 20 名、区長、区民生活部管理課長ほか

令和 8 年 10 月 編集・発行 総務部区政相談課

〒166 - 8570 杉並区阿佐谷南一丁目 15 番 1 号 電話 03 - 5307 - 0728